



岡山県立水島工業高等学校でのGIGAスクール構想推進への取組を取材しました

【概要】

水島工業高校ではベテランと若手がタッグを組んで、校内での活用を推進しています。授業においては、特に若手の先生を中心に、工業科目のうち各種の実習での活用が模索されています。今まで実際に見たり、触れたりすることで伝えられてきた『ものづくりの技術』と、『ICT機器』をうまく組み合わせ、授業の効率化と技術の伝承に取り組んでいます。また、資格検定補習ではFormsを用いることで、反復練習のスピードを上げ、結果のフィードバックがスムーズになっています。就職試験指導でも面接練習を録画し、すぐに、いつでも、何度でも確認できることで、個別に最適化した指導が進められています。

ICT環境：生徒用端末（Chromebook）1年全員+約80台 短焦点プロジェクター Google Workspaceなど

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 実技を伴う科目（工業）における活用

- 1 工業化学科の分析実習では、操作確認はスライドで、実習データの共有はスプレッドシートで行うことで、操作に充てる時間が増えた。**

板書で確認していた実習操作は、スライドを共有することで生徒の端末でいつでも確認することが可能になった。測定値の共有は、以前からExcelで行ってはいいたが、スプレッドシートに変えたことで、教師側の把握が容易になった。また、レポートの提出は紙とデータ（PDF）を併用しており、両者の良いところを残しつつ上手に活用している。



タブレットを横に置いて実習中

- 2 旋盤や鋳造などでは手順や注意点を録画することで、繰り返しの視聴が可能になった。いずれはライブラリー化を目指している。**

実習では一般的に、教師が手順や注意点を実演して、その後生徒が反復練習を行っていく。タブレット端末を用いて手順を録画することで、一度ではわからなかった場合や、欠席した時でも生徒が繰り返し視聴できるようになった。

また、年度当初着任した教師が、自校での取組を予習することにも適している。

このような取組は、沖縄県教育委員会の教育支援ビデオ「OPEN EV」のYouTube動画を参考にしており、見やすい角度だけでなく、肖像権を意識してなるべく生徒の顔を写さない工夫もしている。

今後は、ベテランから若年層への技術の伝承も意識して、工業技術ライブラリーができればと考えている。



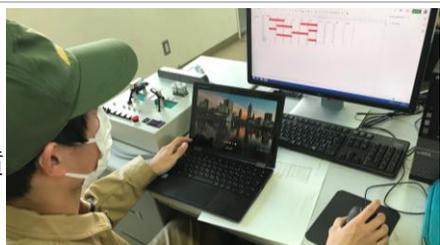
見やすい角度を意識して撮影する



肖像権を意識して顔を入れない

- 3 調べてから質問するという習慣ができ、生徒の学びへの姿勢が変わった。**

生徒が「わからん！」と言う頻度やあきらめる場面が以前より減った。わからないとき、すぐに調べることができ、調べてから質問する習慣が定着してきている。生徒の学びに対する姿勢が変わったように感じられている。



疑問をすぐに調べ、授業が受けやすくなった

